

問1 13世紀におけるモンゴル帝国と日本の関係について、当時の社会情勢を含めて説明した文として正しいものはどれですか。

(2023年 富山公立入試 類似)

- フビライ・ハンが国号を元と定め、服属を拒否した日本に対して大規模な軍隊を送り込んだ。
- 日本への侵攻を主導したのは中国の明王朝であり、鎌倉幕府は対等な貿易を条件に和睦した。
- 朝鮮半島の高麗と結んだ日本は、モンゴル帝国の本土を攻撃するために大陸へ軍を派遣した。
- 元軍の侵攻を防いだ功績として、鎌倉幕府は恩賞を求める武士たちに十分な土地を分け与えた。

問2 鎌倉時代の主従関係における「奉公」の具体的な内容として、正しいものはどれですか。 (2022年 福岡県公立入試 類似)

- 京都や鎌倉を警備したり、軍勢として合戦に参加したりすること
- 収穫した米の半分を税として幕府に納めること
- 地方の行政官である国司に任命され、徴税業務を行うこと
- 仏教を信仰し、幕府の繁栄を祈るために寺院を建立すること

問3 鎌倉時代、宋（中国）で学んだ僧侶の道元が日本に伝え、ひたすら座禅を組むことで悟りを開こうとする教えを何といいますか。 (2024年 長野県公立入試 類似)

- 臨済宗
- 曹洞宗
- 浄土宗
- 日蓮宗

問4 運慶や快慶によって東大寺南大門の金剛力士像が制作された13世紀前半、アジア大陸では新たな勢力が急速に台頭していました。当時の日本文化の背景と国際情勢の組み合わせとして正しいものはどれですか。 (2024年 神奈川県公立入試 類似)

- 大陸ではモンゴル帝国が勢力を拡大しており、日本では武士の好みに合った写実的で力強い文化が栄えた。
- 大陸では唐が滅亡して混乱が続いており、日本では貴族を中心に優雅な国風文化が全盛期を迎えた。
- 大陸では宗教改革による対立が激化しており、日本では阿弥陀如来への信仰が武士の間に浸透した。
- 大陸では秦の始皇帝が統一を果たしており、日本ではそれに対抗するために写実的な彫刻が作られた。

問5 1297年に鎌倉幕府が発令した「永仁の徳政令」について、この法令が出された背景とその内容を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2017年 高知公立入試 類似)

- 元寇による軍役負担で困窮した御家人を救うため、質入れ・売却した土地の無償返還などを命じた。
- 北条氏による執権政治を強化するため、御家人たちが独自の裁判を行うことを禁止した。
- キリスト教の布教を制限し、幕府が貿易を独占することで財政を立て直そうとした。
- 全国の公家や寺社に対して、幕府への忠誠を誓わせる代わりに土地の所有権を認めた。

問6 源頼朝が征夷大将軍となり、鎌倉幕府を成立させるまでの過程で行ったこととして、歴史的な事実に基づいた正しい記述はどれですか。 (2017年 香川公立入試 類似)

- 平氏を滅ぼした後、義経をかくまった奥州藤原氏を討ち、全国的な支配権を確立した。
- 平安時代中期に関東で反乱を起こした平将門を討伐し、その功績によって朝廷から官位を授かった。
- 坂上田村麻呂が築いた胆沢城を拠点にして、東北地方の蝦夷の勢力を武力で制圧した。
- 律令国家の制度を強化するため、国ごとに国司を派遣して土地と人民を直接管理した。

問7 1232年、3代執権の北条泰時が「御成敗式目」を制定した背景として、最も正しい説明はどれですか。 (2022年 福島県公立入試 類似)

- 承久の乱のあと、新しく任命された地頭と従来の領主との間で土地をめぐる争いが増えたため
- 源頼朝の死後、源氏の血筋が途絶えたことで、将軍に代わる新しい統治者を定める必要があったため
- 天皇を中心とした律令制度を復活させ、公家と武士が共同で政治を行う仕組みを整えるため
- 幕府の拠点を鎌倉から京都へ移し、朝廷の政治文化を積極的に取り入れるため

問8 1232年、鎌倉幕府の3代執権である北条泰時が、武士社会の慣習を整理し、公平な裁判を行うための基準として定めた最初の武士独自の法を何といいますか。 (2023年 鹿児島県公立入試 類似)

- 御成敗式目（貞永式目）
- 十七条の憲法
- 武家諸法度
- 公事方御定書

問9 鎌倉幕府が「徳政令」を出さざるを得なくなった背景として、当時の社会状況を説明した文として最も適切なものはどれですか。 (2019年 千葉県公立入試 類似)

- 防衛戦であった元寇では、奪った土地を恩賞として分配することができず、御家人の不満が高まっていたため。
- 幕府が貨幣経済を禁止しようとして、すべての支払いをコメで行うよう強制したため。
- 朝廷が幕府に対抗して新しい法律を作ったため、御家人の忠誠心が揺らいでいたため。
- 大規模な干ばつによって農業生産が激減し、幕府が農民の税を免除したため。

## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え 1</b> フビライ・ハンが国号を元と定め、服属を拒否した日本に対して大規模な軍隊を送り込んだ。	モンゴル帝国のフビライ・ハンは朝鮮半島の高麗を服属させた後、日本にも服属を求めましたが、執権の北条時宗がこれを拒否したため侵攻を決定しました。なお、この戦いは防衛には成功したものの、恩賞として与える土地が不足していたため、幕府に対する武士たちの不満が高まる原因となりました。
問2	<b>答え 1</b> 京都や鎌倉を警備したり、軍勢として合戦に参加したりすること	御家人の「奉公」は、軍事的な役割が中心でした。平時には京都の警備を行う「京都大番役」や鎌倉の警護に従事し、戦時には「いざ鎌倉」の言葉に象徴されるように、自費で軍装を整えて合戦に参加することが最大の義務とされました。
問3	<b>答え 2</b> 曹洞宗	道元は宋での修行を経て日本に帰国し、越前（現在の福井県）に永平寺を建立して曹洞宗を広めました。同じく座禅を重視する臨済宗が幕府や上層武士に支持されたのに対し、曹洞宗は地方の武士や民衆の間に広まったという特徴があります。
問4	<b>答え 1</b> 大陸ではモンゴル帝国が勢力を拡大しており、日本では武士の好みに合った写実的で力強い文化が栄えた。	13世紀前半は、大陸においてチンギス・ハンがモンゴル帝国を建国し、急速に領土を広げていた時期に当たります。これと同じ時期の日本は鎌倉時代であり、幕府を中心とする武士の勢力が強まったことで、芸術面でも従来の貴族的な繊細さとは異なる、運慶・快慶に代表されるような力強く写実的な文化が発展しました。唐の滅亡は10世紀初頭、宗教改革は16世紀の出来事であるため、時代背景が異なります。
問5	<b>答え 1</b> 元寇による軍役負担で困窮した御家人を救うため、質入れ・売却した土地の無償返還などを命じた。	鎌倉幕府の基盤は、将軍からの「御恩（土地の保証）」と御家人の「奉公（軍役）」という主従関係にありました。しかし、元寇の防衛戦では十分な恩賞が与えられず、生活に窮した御家人が土地を売る事態が相次いだため、幕府は主従関係を維持するためにこの法令を強行しました。
問6	<b>答え 1</b> 平氏を滅ぼした後、義経をかくまった奥州藤原氏を討ち、全国的な支配権を確立した。	源頼朝は、弟の義経を追放した際に彼をかくまった奥州藤原氏を1189年に滅ぼしました。これにより、平氏追討に続く軍事行動を完了させ、名実ともに武士の頂点としての地位を固めました。平将門の乱は頼朝以前の10世紀の出来事であり、坂上田村麻呂の活動は平安時代初期のことです。また、頼朝が国ごとに配置したのは国司ではなく、武士による統治を担う守護でした。
問7	<b>答え 1</b> 承久の乱のあと、新しく任命された地頭と従来の領主との間で土地をめぐる争いが増えたため	承久の乱の結果、幕府は西日本にも多くの地頭を任命しましたが、これにより各地で土地の支配権をめぐるトラブルが急増しました。北条泰時は、御家人たちに公平な裁判の基準を示すことで、これらの混乱を鎮め、北条氏による執権政治の基盤を安定させようと考えました。
問8	<b>答え 1</b> 御成敗式目（貞永式目）	承久の乱の後、幕府の支配力が西日本まで及ぶようになると、各地で地頭と荘園領主との間に土地をめぐる紛争が急増しました。北条泰時は、裁判を公平に行い、御家人の権利を保障するために、これまでの慣習法を成文化しました。これは後の武家法の模範となりました。
問9	<b>答え 1</b> 防衛戦であった元寇では、奪った土地を恩賞として分配することができず、御家人の不満が高まっていたため。	鎌倉幕府の基盤は、将軍が御家人に領地を保証・支給する「御恩」と、御家人が軍役を果たす「奉公」という主従関係にありました。元寇の際、御家人たちは暴風雨の助けもあって元軍を撃退しましたが、自衛のための戦争であったため、幕府は御家人に与えるための新たな領土を手に入れることができませんでした。このことが御家人の困窮と幕府への不信感を招き、徳政令という強制的な借金帳消し策をとる要因となりました。